

令和4年度授業力向上推進プロジェクト(工業)

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けたICTを活用した授業事例

実施科目

〈実施科目〉

- 工業管理技術（選択授業）

〈対象クラス〉

- ○○○○科 3年（31名）

〈使用ICT機器〉

- タブレット・プロジェクター

「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けたICTを活用した授業事例

〈単元〉

- 第4章 生産管理 5. 物流

〈目標〉

- 生産に係る物流手段や経費について学ぶ
- 物流の新しい流れについて知る

〈課題〉

- ロジスティクスの導入のメリットについて理解する

授業の展開

一斉授業(パワーポイントの利用)

- ロジスティクスを理解するうえで必要なことを教える



調べ学習(タブレットの利用)

- 仲間と協力して調べてもよい
- 調べたことについてノートにまとめる



情報の共有

- 調べたことについて仲間に教える

授業展開の工夫

ロジスティクスについて教科書の記述では、

「サプライチェーンの物流を統合的にとらえて、各物流の同期化をはかること。市場ニーズに適合するためには、調達、生産、販売、物流などの全体的な流れを計画・実施・管理することまで含めて包括的に考える」

とあるが非常に理解が難しい。しかし、生産管理でモノの流れ・移動も非常に重要な部分である。また、コロナ禍で宅配サービスも大きく変化した。ただ運ぶだけでなく、消費者にの要望に応えられ利益を出して運搬するには、しっかりと管理され、効率よく運ばなければならない。そこで、ロジスティクスについて調べる機会を設けた。

また、調べたことについてグループで交流し、情報を共有する。

授業展開の工夫

- 調べ学習＝主体的で深い学び
- 調べたこととの交流＝対話的な学び
- タブレットの使用＝ICT活用

調べ学習の効果的な活用

- 調べる対象の前提となる知識は必要
- 何を調べるのか明確にする

（物流とロジスティクスの違い。ロジスティクスで行う業務など）

- 検索ワードの例を挙げる

（ロジスティクス ○○）

ICT活用の成果

- 自ら調べることによって、より理解深まり、イラストや図解、映像具体的な仕事をイメージすることができるようになった
- 調べた結果を共有することで、より知識を広く知ることができる
- 学習への意欲が湧いた

ICT活用の課題

- タブレットの取扱い
- ネットワークの切断
- メタモジの活用
- 継続的な使用
- 検索の仕方の工夫
- 情報があふれている
- ICT活用のための授業研究・準備する時間の確保
- ITリテラシーの差が学習の深度に違いが出る

「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けた授業展開の工夫と課題

- ITリテラシーの向上
- ICT機器を活用した授業の積み重ね
- 対話的な学習の積み重ね

評価の方法

- 知識・技術

物流とロジスティクスの違いが説明できる

- 思考・判断・表現

ロジスティクスがどのような取り組みをしているか説明ができる

- 主体的に学習に取り組む態度

調べ学習、情報の共有に積極的に取り組んでいるか

具体的な評価基準

- 知識・技術

ロジスティクスがどのような取り組みをして、それがどう経費につながるか説明されている

A 具体的な例をいくつかあげ、しっかり説明されている

B 具体的な例があがっているが、経費についての説明がない

効率・経費について説明がされているが、具体例がない

C 説明が不適切・無記入

具体的な評価基準

- 思考・判断・表現

物流とロジスティクスの違いが説明できる

A 分かりやすい言葉で簡潔に説明ができています。

B 教科書にあるような難しい言葉を用いて説明がされている。

C 説明ができていない

具体的な評価基準

- 主体的に学習に取り組む態度

調べ学習、情報の共有に積極的に取り組んでいるか

A 調べ学習・情報共有において積極的に参加している

B 調べ学習・情報共有に参加している

C 調べ学習・情報共有の参加に消極的である

取り組み姿勢の評価表

13	A · B · C	6	A · B · C	20	A · B · C			34	A · B · C		
7	A · B · C					28	A · B · C	33	A · B · C		
4	A · B · C	11	A · B · C	18	A · B · C	25	A · B · C	31	A · B · C		
3	A · B · C	21	A · B · C	17	A · B · C	24	A · B · C	32	A · B · C	38	A · B · C
2	A · B · C	9	A · B · C	16	A · B · C	23	A · B · C			37	A · B · C
1	A · B · C	8	A · B · C	15	A · B · C	22	A · B · C	29	A · B · C	36	A · B · C
		5	A · B · C	14	A · B · C					40	A · B · C

評価方法について

- ・ノート、プリント、テストのようなものがじっくりと評価ができる。プリントやテストであれば、百問繚乱を用いて、採点もできる。
- ・評価基準を用意しても、それに当てはまらない答えの場合の調整が大変である。